

### 第3節 常盤構内の立会調査

#### 工学部焼却炉上屋新営に伴う立会調査

調査地区 常盤構内

調査期間 昭和64年1月6日

調査方法 工事施工時における立会調査

調査面積 約225㎡

調査結果 周辺地域では、数件の既往調査がある。今回の調査地点に近接する、昭和60年度の受水槽総改修工事に伴う立会調査では、上層から、腐植土・攪乱土、そして現地表下50cm以下において、明橙色の地山となっている。

本工事内容は、現地表面より、最高65cmの掘削を行なうものである。各地点の土層堆積状況は、北端中央部では、現地表下45cmまでの掘削であったが、埋め土の範囲内であった。中央部では、現地表下65cmまでの掘削で、埋め土の範囲内であったが、その直下には、黄橙色粘土の地山が堆積していた。南端中央部では、現地表下65cmまでが埋め土で部分的に深掘りを行った結果、現地表下70cm下位で黄橙色粘土の地山が、その下位に黄色砂礫層が堆積していることを確認した。いずれの地点においても遺構・遺物の発見はなく、現地表下65cmまでは埋め土の範囲内であったため、特に埋蔵文化財に対する支障はないものと判断された。

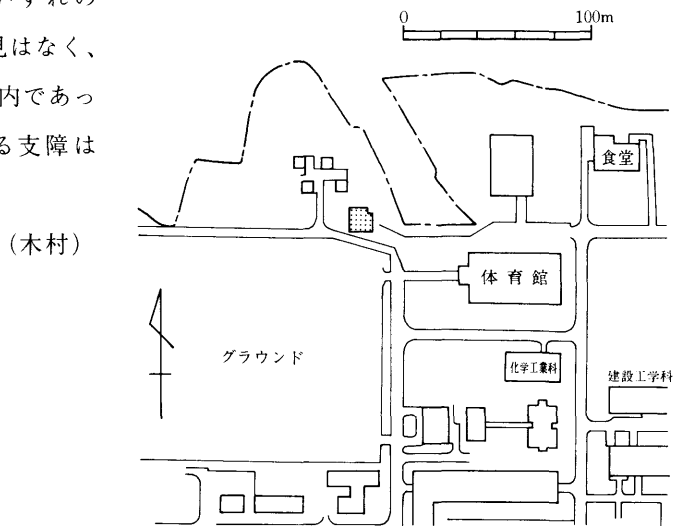


Fig. 13 調査区位置図